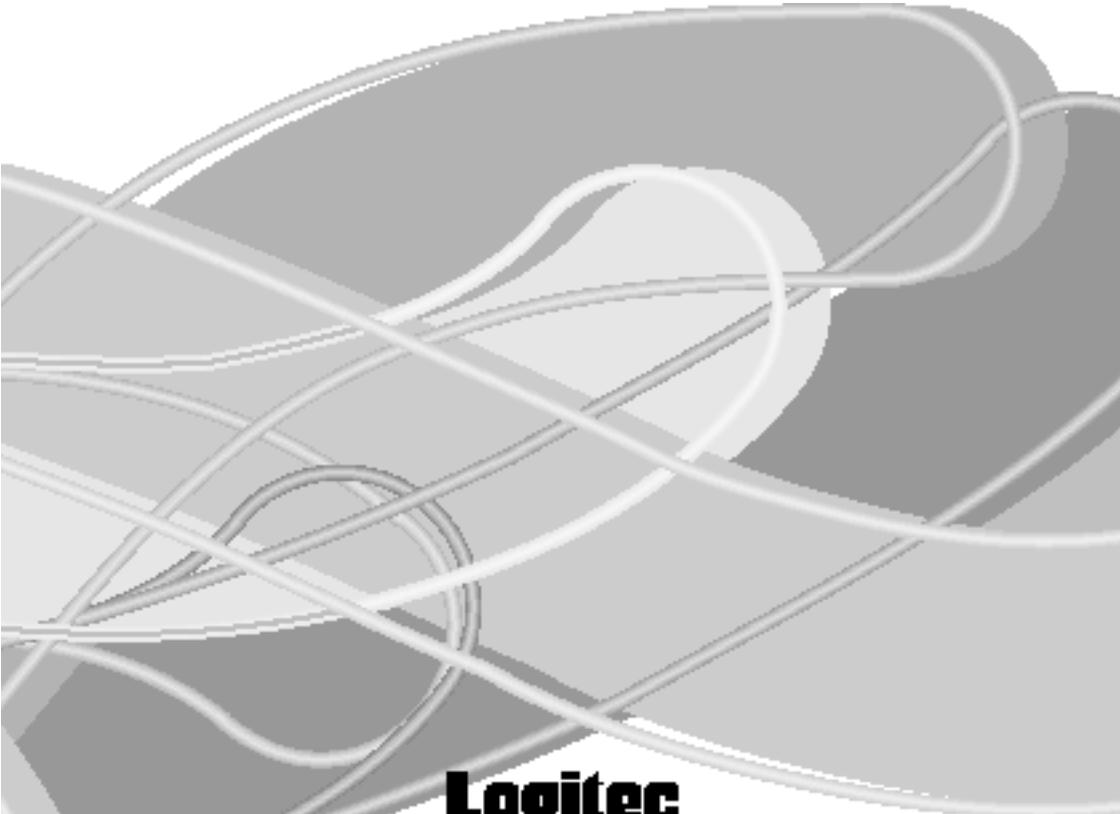


LMO-SK V01A

INTERNAL SCSI MO UNIT

MOユニット・ ユーザーズマニュアル

LMO-DxxSK シリーズ



Logitec

目次

取扱い上のご注意	1
ごあいさつ	3
ご注意	3
付属品の確認	4
第 1 章 製品のご紹介	5
1 . 1 製品の概要	5
1 . 2 各部の名称	8
第 2 章 接続について	10
2 . 1 接続の前に	10
2 . 2 接続の手順	15
第 3 章 接続後の作業	18
3 . 1 使用可能な状態になるまで	18
3 . 2 ソフトウェアのインストール	19
3 . 3 メディアのセット / 取り出しについて	21
第 4 章 補足事項	24
4 . 1 トラブルシューティング	24
4 . 2 保守とその他	27
4 . 3 メディアID について	28
ハードウェア仕様	29

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示(マークなど)を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。



注意

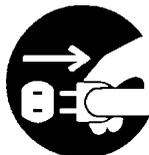
この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かには注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。



塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

接続時には電源コードを抜いてください。

本製品をパソコン本体に接続するときには、パソコン本体の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜いてください。



分解 / 改造しないでください。

本製品は絶対に分解しないでください。内部にはレーザー光を使用している部分があります。レーザー光を直視すると視覚に重大な傷害を与えます。



注意

接続時、感電 / 火傷等に注意してください。

- ・パソコン本体内部には感電の危険性がある部分があります。感電には十分注意してください。
- ・電源OFF直後のパソコン本体内部には、高温の部分（CPUなど）があります。火傷しないように注意してください。
- ・パソコン本体内部の金属部分や基板の裏側に、不注意に触れるとケガをすることがありますので注意してください。



感電注意



高温注意



ケガに注意

内部に異物を入れないでください。

本製品内部に水などの液体や金属片を入れると、故障、感電、火災の原因となります。



その他の
禁止事項

静電対策をしてください。

本製品およびパソコン本体には、静電気に弱い部品が使用されています。静電気のためやすいカーペットの上などに置かないでください。

また、接続の前にパソコン本体の金属が露出している部分にふれて、体内の静電気を放電してから作業を行ってください。接続時、不要な部分には手を触れないでください。



その他の
強制事項

ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、一 項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

本製品を使用して保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようお願いいたします。

弊社は、本製品の仕様がお客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。



ご注意

当社 DOS/V 対応製品は、OADG(*1)加盟メーカーの DOS/V パソコンで一般に市販されている製品を想定して設計されています。しかし、接続確認については全ての機種を確認することは不可能ですので、代表的な製品のみで確認を行っております。そのため、本製品を使用できない、または本製品の機能を使用できないパソコンが一部に存在する可能性があることは、ご了解いただきますようお願いいたします。特に自作パソコンやショップ組立てパソコンでは、コストの問題やパフォーマンスの追求のため、想定外の部品が使用されている場合があります。このような場合、相性問題などが発生する可能性が高くなることをご承知おきください。

(*1)OADG は「PC オープンアーキテクチャー推進協議会」の略です。
(OADG URL <http://www.oadg.or.jp/>)

付属品の確認

MOユニット	1 台
イジェクトツール	1 個
取り付けネジ	4 個
「LogitecWare」 CD-ROM	1 枚
保証書 / ユーザー登録カード	1 枚
MOユニット・ユーザーズマニュアル	本書

本製品は精密電子機器です。輸送時には必ず付属の梱包材をご使用ください。

* MS[®]、Windows[®]は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国での登録商標です。本書に記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

第 1 章 製品のご紹介

1.1 製品の概要

本製品は各社の DOS/V パソコン、および日本電気株式会社の PC98-NX シリーズに内蔵可能な 3.5 型 MO ユニットです。

1

本製品の特徴

パソコン本体のベイに内蔵するタイプですので設置に場所を取りません。

世界標準の ISO 規格に準拠する MO メディアを使用できます。(使用可能な MO メディアの容量やタイプについては 7 ページの「使用可能な MO メディア」をご参照ください。) MO メディアの判別は自動判別で行われます。

LMO-D2300SK は、2.3GB MO メディア (GIGAMO 2.3GB 規格) に対応しています。

LMO-D1354SK は 1.3GB MO メディア (GIGAMO 1.3GB 規格) に対応しています。

ノーマルタイプの MO メディアの他に、オーバーライトタイプの MO メディアを使用することもできます。このタイプの専用 MO メディアを使用すると、旧データの消去と新データの書き込みを 1 回転で行うことができるため、高速な書き込みが可能です。

高速タイプのドライブとドライブ内部のキャッシュメモリにより、高速なアクセスを可能にしています。(平均シークタイム、ディスク回転数、キャッシュメモリの容量などについては、巻末の「ハードウェア仕様」をご参照ください。)

耐塵設計のドライブを使用していますので、防塵フィルタは必要ありません。(ただしディスクのクリーニングは必要です。)

接続可能なパソコン

本製品は各社のDOS/Vパソコン、日本電気株式会社のPC98-NXシリーズのうち、以下の条件を満たす機種で使用することができます。

5インチベイ（もしくは3.5インチベイ）に空きがあること。

SCSIインターフェースを標準搭載しているか、下記で説明する弊社SCSIインターフェースを接続可能であること。

パソコン本体の機種によっては、取付け金具などが別途必要な場合もあります。詳細についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。



ご注意

発売されているすべての機種で動作確認を行うのは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることは、あらかじめご承知おきください。

SCSI インターフェースについて

パソコン本体にSCSIインターフェースが標準搭載されていない場合、以下の弊社SCSIインターフェースのいずれかをご使用ください。

SCSIインターフェース	バス	内部ケーブル	対応機種
LHA - 600S / B	PCI	付属	DOS / V パソコン PC98 - NX シリーズ PC - 9800 シリーズ兼用
LHA - 600S / A		別売	
LHA - 600S			

上記SCSIインターフェースのうちで、内部ケーブルが「別売」と書かれたものは、弊社ケーブル「CB-F50」が別途必要です。



ご注意

上記SCSIインターフェースは、以下のパソコンでは使用できません。

富士通株式会社

FMV-5133DPS , FMV-5150DPS

使用可能な OS

本製品は以下の OS で使用することができます。(いずれも日本語バージョンに限ります。また、パソコン本体がサポートしていない OS では使用することができません。)

マイクロソフト株式会社	Windows XP Home Edition/Professional Windows Me Windows 98 (Second Edition 含む) Windows 95 Windows 2000 Professional Windows NT 4.0
-------------	---

1

使用可能な MO メディア

本製品で使用可能な MO メディアは以下の通りです。

		LMO - D2300SK	LMO - D1354SK	LMO - D654SK
128MB	標準			
	OW			
230MB	標準			
	OW			
540MB	標準			
	OW			
640MB	標準			
	OW			
1.3GB	標準			x
	OW			
2.3GB	標準		x	x
	OW			



ご注意

本製品では 128MB の MO メディアへの書き込みが可能ですが、これを行った 128MB の MO メディアを、他の MO ユニットで読み込めるかどうかは、保証の範囲外とさせていただきます。(本製品と同じ MO ユニットでの読み込みは可能です。)

これは 128MB の MO ユニットには、初期のドライブを使用した製品があり、レーザー光の強度が最新のドライブと異なる可能性があるためです。他の MO ユニットとのデータ交換は、230MB 以上の MO メディアをご使用ください。

1 . 2 各部の名称

本製品前面

メディア挿入口

MOメディアをセットする部分です。セット方法は「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

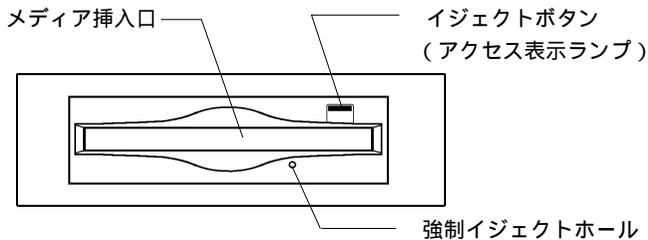
イジェクトボタン (アクセス表示ランプ)

Windowsが起動していない状態でMOメディアを取り出したいときに使用します。Windowsが起動している状態での取り出し方法については「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

また、このボタンはアクセスを表示する機能もあります。MOメディアに対して読み書きが行われているときに点灯します。

強制イジェクトホール

何かの原因でMOメディアが排出されなくなった場合に使用します。詳細は「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。



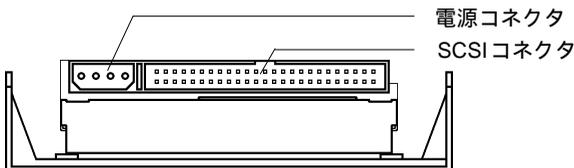
本製品
背面/天面

電源コネクタ

・パソコン本体の内部電源ケーブルを接続します。

SCSI コネクタ

・内部SCSIケーブルでSCSIインターフェースボードの内部SCSIコネクタと接続します。(内部SCSIケーブルは別売またはSCSIインターフェースボード付属のものを使用します。)



本製品
天面

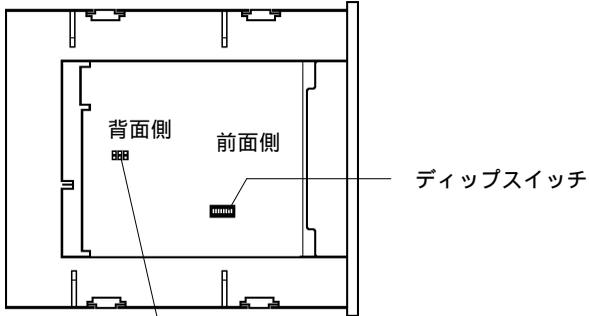
ディップスイッチ (LMO-D1354SK、LMO-D654SK のみ)

- ・本製品の ID ナンバーを設定します。設定方法については、第 2 章をご参照ください。

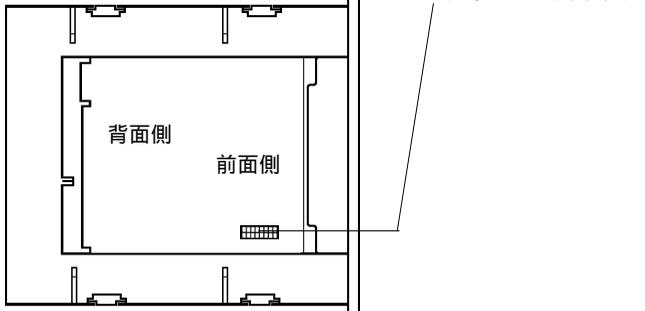
ジャンプスイッチ

- ・LMO-D1354SK、LMO-D654SK では、本製品内蔵ターミネータの有効 / 無効を設定します。設定方法については、第 2 章をご参照ください。
- ・LMO-D2300SK では内蔵ターミネータの有効 / 無効の設定と ID ナンバーの設定を行います。設定方法については第 2 章をご参照ください。

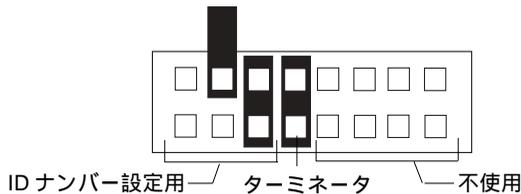
天面図
LMO-D1354SK
LMO-D654SK



天面図
LMO-D2300SK



LMO-D2300SKのジャンプスイッチの役割



第2章 接続について

2.1 接続の前に

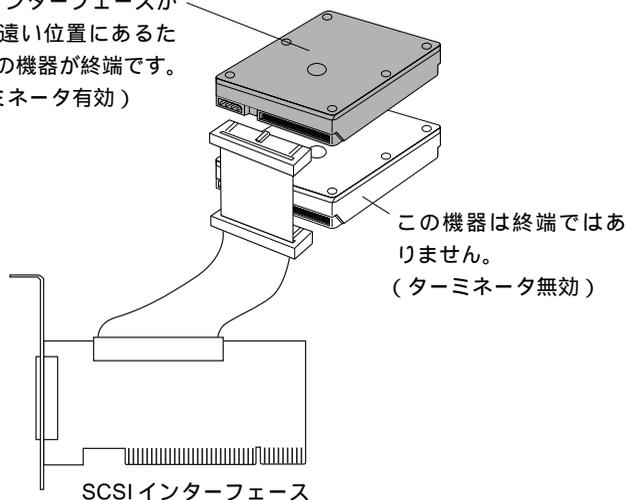
本製品を接続する前に、背面のジャンパースイッチでターミネータの有効/無効とIDナンバーを設定してください。

ターミネータについて

SCSIでは接続の終端（SCSIインターフェースから最も遠い位置）に接続される機器のターミネータを「有効」に設定し、その他の機器のターミネータは「無効」に設定しなければなりません。（本製品のターミネータは出荷時「有効」に設定されています。）

本製品を終端以外の位置に接続する場合は、次ページの手順でターミネータを「無効」に設定してください。

SCSIインターフェースから最も遠い位置にあるため、この機器が終端です。（ターミネータ有効）



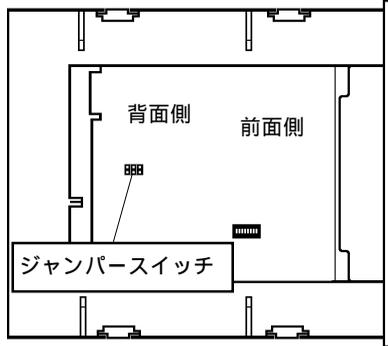
ご注意

本製品以外に内蔵SCSI機器を使用しない場合は、必ず本製品が終端となります。（ターミネータ有効）

ターミネータの設定方法

本製品では、ジャンパースイッチでターミネータの有効 / 無効を設定することができます。出荷時は「有効」に設定されていますので、終端にならない位置に接続する場合には、ピンセットなどで下図のジャンパープラグを変更してください。

LMO-D1354SK
LMO-D654SK
の場合



 = ジャンパープラグを
セットする位置

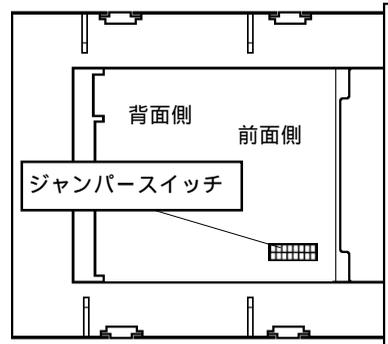
ターミネータ：有効
(出荷時設定)



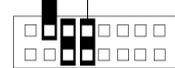
ターミネータ：無効



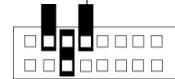
LMO-D2300SK
の場合



ターミネータ：有効
(出荷時設定)



ターミネータ：無効



LMO-D2300SK でのターミネータの設定は左から 4 列目のジャンパースイッチで行います。



ご注意

- ・ターミネータの設定は上記以外の設定にしないでください。
- ・ターミネータは必ず終端の位置に接続された機器だけを有効にしてください。不要に多くのターミネータを有効にすると、過電流で機器を損傷する場合があります。

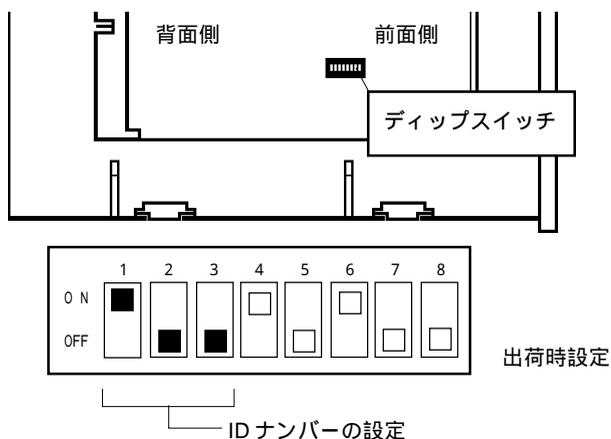
IDナンバーの設定

IDナンバーはSCSI機器を区別するための番号です。「0」～「6」の範囲で任意の番号を設定できますが、併用するSCSI機器間で重複があってはいけません。(例えばIDナンバー「4」に設定された機器が、2台以上同時に接続されてはいけません。)

本製品は出荷時設定でIDナンバー「4」に設定されていますので、外付け/内蔵のSCSI機器でこれと重複するものがある場合は、設定を変更してください。

LMO-D1354SK、LMO-D654SKのIDナンバー設定方法

LMO-D1354SK、LMO-D654SKの場合、IDナンバーの設定はディップスイッチにて行います。下図をご参照ください。



ID 0	ID 1	ID 2	ID 3																								
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	■																									
ID 4	ID 5	ID 6																									
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■							
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	■																									

(出荷時)

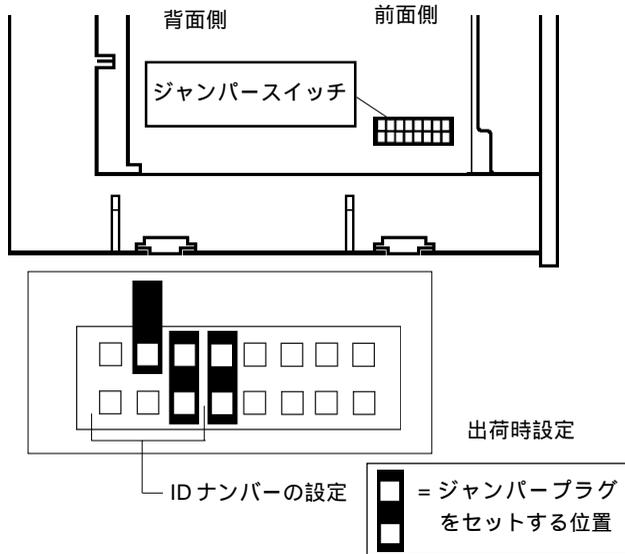


ご注意

ID ナンバーの設定以外のディップスイッチは、初期設定のまま変更しないでください。

LMO-D2300SK の ID ナンバー設定方法

LMO-D2300SK の場合、ID ナンバーの設定は、左側の 1 ~ 3 列目のジャンパープラグにて行います。下図をご参照ください。



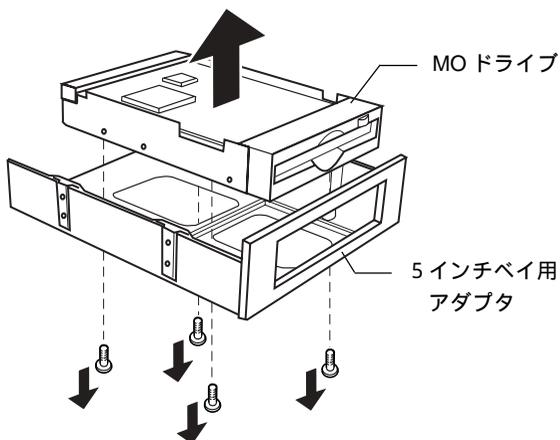
ID0	ID1	ID2	ID3
ID4	ID5	ID6	

(出荷時)

3.5 インチベイに接続する場合は・・・

本製品は、5 インチベイ用のアダプタが取り付けられた状態で出荷されています。そのため、本製品を3.5 インチベイに接続したい場合は5 インチベイ用のアダプタを外す必要があります。

5 インチベイ用のアダプタを外したい場合は、下図のように底面のネジ4本を取り外して、MOドライブを上を持ち上げてください。



⚠️ ご注意

- ・本製品を5インチベイに接続する場合、上記の作業は必要ありません。
- ・3.5インチベイはパソコン本体の機種によって形状や取り扱いがまったく異なります。そのため、本製品を3.5インチベイに接続する場合は、パソコン本体の取扱説明書にしたがって作業を行ってください。

2.2 接続の手順

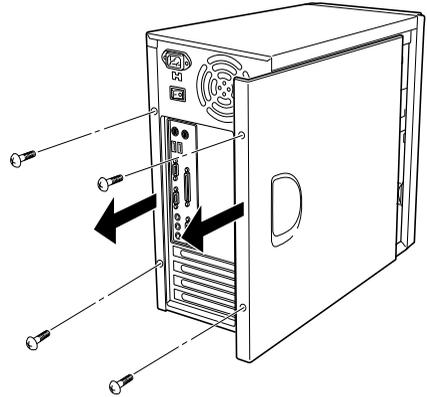
ここでは本製品をパソコン本体の5インチベイに内蔵する手順を概略的に説明します。詳細についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。また、パソコン本体によって取り付けに特殊な金具が必要な機種もありますので、あらかじめ、パソコン本体の取扱説明書で確認してご用意ください。



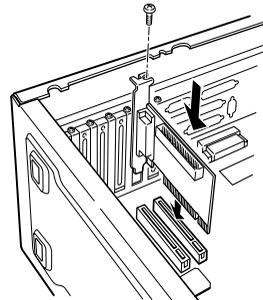
重要なお注意

接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源をOFFにして、パソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。接続時に内部ショートが発生すると電源がONになる場合があります。感電や火災を防止するため、**必ず電源コードをコンセントから外してください。**

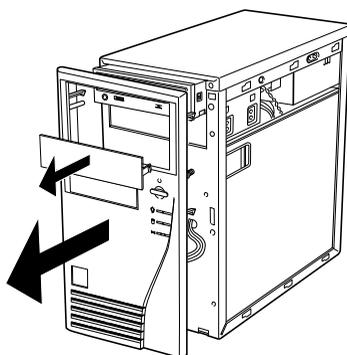
パソコン本体のカバーを取り外します。(右のイラストは一例です。取り外し方法についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。)



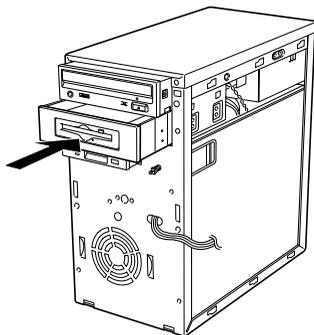
拡張スロットのスロットカバーを取り外して、SCSI インターフェイスボードを取り付けます。スロットカバーを取り付けていたネジで固定しておいてください。



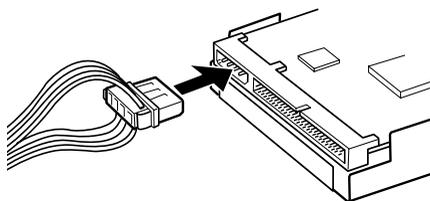
フロントパネルを外し、そこに
取り付けられた 5 インチベイの
カバーを取り外してください。



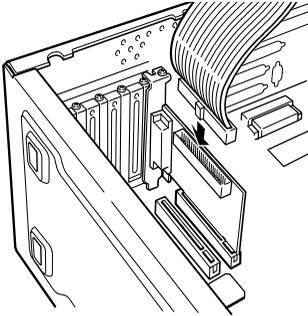
本製品を 5 インチベイに挿入しま
す。完全に挿入してしまうと、次の
作業(~)がやりにくくなります
ので、半分くらい挿入した状態
で次の作業を行ってください。(ま
だ、この段階ではネジ止めしませ
ん。)



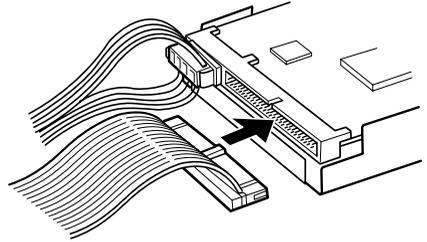
パソコン本体の内部電源ケーブル
を本製品の電源コネクタに接続し
ます。このコネクタは正しい方向
でしか接続できない形状になっ
ています。



内部SCSIケーブルでSCSIインターフェースボードの内部SCSIコネクタと、本製品のSCSIコネクタを接続します。このコネクタは正しい方向でしか接続できない形状になっています。(内部SCSIケーブルはSCSIインターフェースボード付属のものか、別売ケーブル「CB-F50」をご使用ください。)

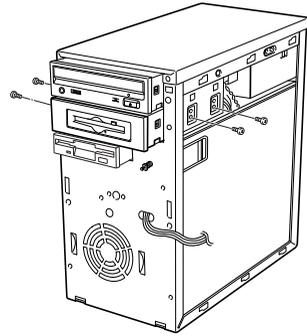


SCSI インターフェースボード側

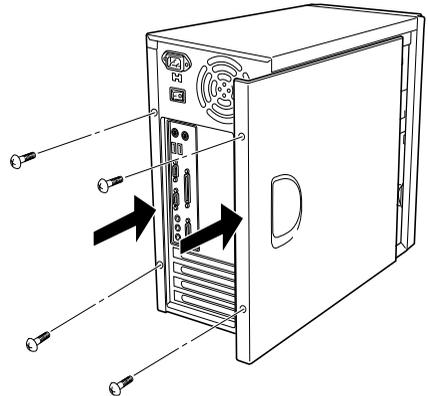


本製品側

本製品を完全に挿入して、付属のネジで固定します。ネジ止めの方法はパソコン本体によって異なりますが、多くの場合、横から止めます。



ケーブルなどを挟み込まないように注意して、パソコン本体のフロントパネルとカバーを取り付け、ネジで固定します。



以上で接続は終了です。

第3章

接続後の作業

3.1 使用可能な状態になるまで

接続が完了したら、パソコン本体の電源をONにして、Windowsのシステムを起動してください。

SCSIインターフェースボードを新規接続した場合は、Windowsのシステム起動が完了する前に、プラグ&プレイでSCSIインターフェースボードが認識され、ドライバのインストール作業に入ります。SCSIインターフェースボードのマニュアルにしたがってインストール作業を行ってください。

Windowsのシステム起動が完了したら、「マイコンピュータ」をダブルクリックして開いてください。すべての作業に問題がなければ、本製品がリムーバブルディスクとして認識され、したの図のように新しいリムーバブルディスクのアイコンが登録されているはずです。

もし、本製品がリムーバブルディスクとして認識されていない場合は、第4章の「4.1 トラブルシューティング」にしたがってチェックを行ってください。

3

Windows 98, Me, 2000 等では



本製品のアイコン
ドライブ名は異なる
可能性があります。

Windows XP では...



3.2 ソフトウェアのインストール

本製品には、MOメディアを使用する上で必要なソフトウェア（フォーマッタ等）が、「ディスクユーティリティ」として添付されています。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。（下図参照）

1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを1回クリックして、選択状態にします。



2. 「セットアップの起動」をクリックします。

3

Point

ポイント

Windows Me ,98/95をご使用の場合、ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」、「ディスクジェクトツール」、「MO補助ドライバ」が含まれています。これらのユーティリティは本製品を使用する上で必要ですので、必ずすべてインストールしてください。

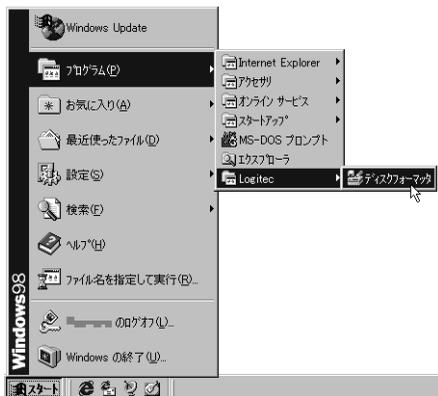


Windows XP , 2000 , NT 4.0 の場合、ディスクユーティリティは「MOメディアフォーマッタ」のみです。

MOメディアのフォーマットは

MOメディアのフォーマットは「ディスクユーティリティ」に含まれる「ディスクフォーマッタ」(Windows XP, 2000, NT 4.0の場合は「MOメディアフォーマッタ」)で行います。

ディスクユーティリティのインストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitech」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」(もしくは「MOメディアフォーマッタ」)をクリックすることで起動できます。



また、Windows Me, 98/95 でインストール時にデスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



フォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」「MOメディアのフォーマット」をご参照ください。



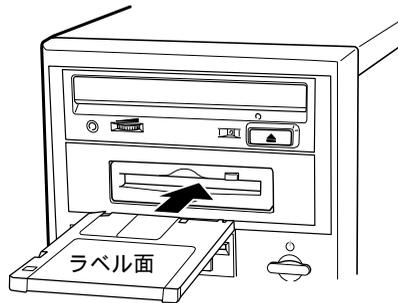
参考

Windows XP, 2000, NT 4.0用のMOメディアフォーマッタにはヘルプはありません。必要に応じて、「LogitechWare」CD-ROMのオンラインマニュアルを参照してください。

3.3 メディアのセット/取り出しについて

メディアをセットするには

本製品にMOメディアをセットする場合は、下図の方向でメディア挿入口に挿入してください。(間違った方向では挿入できません。)



ご注意

本製品にはMOメディア以外のメディアは挿入しないでください。フロッピーディスク等を無理に挿入すると機器を損傷します。

メディアを取り出すときは

Windows には遅延書き込み機能(*1)があるため、メディアを取り出すときは本製品前面のイジェクトボタンを使用するよりも、ソフトウェアによる取り出しを行ったほうが安全です。

取り出しの手順は使用するOSによって異なります。次ページをご参照ください。

*1 書き込みデータをメモリ上のキャッシュに蓄積することによって、見かけ上高速に書き込みを終了する機能。パフォーマンスは向上するが、書き込みデータがメモリ上に残った状態でMOメディアを取り出すと、データが失われる危険性がある。

Windows Me , 98/95 の場合

Windows Me , 98/95 上でMOメディアを取り出したい場合は、ディスクユーティリティインストール時にインストールされたイジェクトツールを使用します。タスクバーの右図のアイコンをクリックして、表示されるメニューから本製品のドライブ名を選択してください。



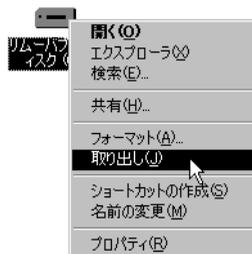
このアイコンをクリックします。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。

Windows XP , 2000 , NT 4.0 の場合

Windows XP , 2000 , NT 4.0 上でMOメディアを取り出したい場合は、「マイコンピュータ」に登録された本製品のアイコン(リムーバブルディスク)を右クリックして、表示されるメニューから「取り出し」を選択してください。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

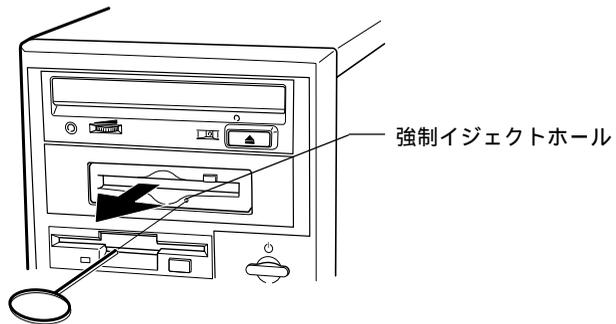
- ・Windows XP , 2000 , NT 4.0 でMOメディアを取り出すには、管理者権限を持つユーザー(例えば「コンピュータの管理者」や「Administratorsグループ」)のメンバーとしてログオンする必要があります。
- ・Windows NT 4.0 では、NTFS形式でフォーマットされたMOメディアをシステムが起動している状態で取り出すことはできません。これを取り出したい場合は、システムを終了してからイジェクトボタンを押してください。

メディアが取り出せなくなった場合

何かの原因でメディアが取り出せなくなってしまった場合は、まず本製品のアクセス表示ランプが点灯していないかをチェックしてください。点灯していない場合には、一度システムを終了して、パソコン本体の電源を入れ直してみてください。

それでも状態が改善されない場合は、以下の手順でメディアを強制排出することができます。これを行なうときには、必ずパソコン本体の電源をOFFにしてください。

本製品付属のイジェクトツールを強制イジェクトホールに差し込んで押ししてください。



メディアが2～3 cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

電源がONの状態では、絶対に強制イジェクトを行わないでください。

第4章 補足事項

4.1 トラブルシューティング

本製品を接続するとシステムが起動しない。

本製品のIDナンバーが併用している他のSCSI機器と重複していないかどうかを確認してください。

本製品がリムーバブルディスクとして認識されない。

ケーブルの接続に接触不良等がないかどうか確認してください。
内部電源ケーブルの接続に問題がないかどうか確認してください。
接続に使用しているSCSIインターフェースのドライバはインストールされていますか？

Windows Me, 98/95の場合は、「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブを開いて、SCSIインターフェースが認識されているかどうか、「！」マークなどがついていないかどうかを確認してください。

Windows 2000の場合は、「コントロールパネル」 「システム」 「ハードウェア」タブを開いて、表示される「デバイスマネージャ」ボタンをクリックし、SCSIインターフェースが認識されているかどうか、「！」マークなどがついていないかどうかを確認してください。

MOメディアのアクセス時にエラーが発生する。

MOメディアは汚れていませんか？ ディスク・クリーニングを行ってみてください。

MOメディアの不良も考えられます。別のディスクで試してください。これで問題がなければ、エラーが発生するMOメディアのデータをバックアップして、再フォーマットを行ってください。

特定のMOメディアをアクセスできない。

ご使用の機種名をご確認ください。機種により使用できるMOメディアの容量が異なります。詳しくは本書7ページ、「使用可能メディア」をご参照ください。

そのMOメディアはフォーマットされていますか？ 一般にMOメディアは物理フォーマット済みで発売されていますが、物理フォーマットのみではアクセスはできません。本書記載の方法でフォーマット（論理フォーマット）を行ってください。

MOメディアではスーパーフロッピーフォーマットの形式が一般的ですが、ハードディスク形式やアップルコンピュータ社のMacintoshシリーズ用にフォーマットされたディスクもあります。異なるシステムとデータ交換を行う場合には、スーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用してください。（MacintoshシリーズでスーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用するには、MacOS標準のユーティリティ「PC Exchange」が必要です。）

MOメディアに書き込みができない。

MOメディアのライトプロテクト・ノッチがプロテクト側に設定されていませんか？

MOメディアの取り出しができない。

「3.3 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）でMOメディアを使用できない。

一部のユーティリティソフトウェアでは、動作対象がハードディスクのみになっている場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせ、そのソフトウェアがMOメディアを動作対象としているかどうかを確認してください。

一部のソフトウェアでは、動作中のディスク交換の問題などからインストール対象をハードディスクに限定している場合があります。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

その他：弊社ホームページについて

弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーや、各種製品に関するQ&Aコーナーがあります。また、「サポート情報」では「お問い合わせ用紙」や「修理依頼書」などが、PDF形式でダウンロード可能になっていますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitech.co.jp/>

4.2 保守とその他

メディアのクリーニングについて

MOメディアは1～3ヶ月に1回程度、別売のメディアクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの取扱説明書をご参照ください。

本製品用のメディアクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番：LMO-330-02

レンズ・ヘッドのクリーニングについて

空気中に浮遊するほこり、ちり、およびタバコの煙などが、本製品内部のレンズ・ヘッドに付着すると性能が低下することがあります。

本製品内部のレンズ・ヘッドは3ヶ月に1回程度、別売のレンズクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの使用法をご参照ください。

本製品用のレンズ・ヘッドクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番：LMO-640-02



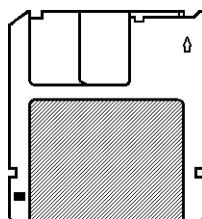
ご注意

- ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットは必ず弊社販売の「LMO-640-02」をご使用ください。市販のものを無理に使用すると、機器を損傷する場合があります。
-

MOメディアのラベルについて

MOメディアにラベルを貼付する場合は、必ず指定の位置に1枚だけ貼ってください。また、貼った後ではがれないようにMOメディアの両面をしっかり押さえてください。(最近のラベルには再剥離可能なようにのりが弱いものもあります。そのようなラベルはできるだけ使用しないでください。)

不適切な位置に貼ったり、2枚貼りするとMOユニット内部でラベルがはがれて、MOメディアがイジェクトできなくなる恐れがあります。

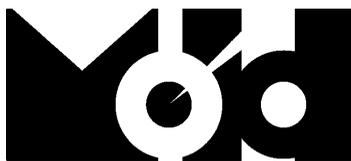


裏面に回る部分がはがれやすいのでしっかり押さえます。

斜線の部分からはみ出さないように貼ります。

4 . 3 メディアIDについて

本製品は「メディアID」機能に対応しています。以下のロゴマークはメディアID機能対応を示すものです。



メディアIDとは、メディアID対応のMOメディアに著作権保護の目的で記録された変更不可能な固有の番号です。今後ブロードバンドコンテンツ配信サービスなどで、メディアIDを前提とした著作権保護が施されたコンテンツの配信が予定されますが、このようなコンテンツを保存/再生するには、メディアIDに対応したMOメディアおよびMOドライブが必要です。詳細についてはインターネット上の弊社Webサイトをご参照ください。

本製品のメディアID機能を使用するためにはドライブが必要となります。メディアID対応ドライブは、付属のCD-ROM「LogitecWare」内に収録されています。また、最新バージョンについては、弊社Webサイトに公開中です。

ハードウェア仕様

機種名	LMO- D2300SK	LMO- D1354SK	LMO- D654SK
メディアタイプ	3.5 型MOメディア *1		
ディスクあたりの記憶容量	128MB/ 230MB 540MB/ 640MB 1.3GB/ 2.3GB	128MB/ 230MB 540MB/ 640MB 1.3GB	128MB/ 230MB 540MB/ 640MB
平均シークタイム	19 ms	23 ms	
ディスク回転数	5455 rpm *2 3637/ 4138/ 4801 rpm 3637 rpm	5455 rpm *3 3637 rpm	5455 rpm
インターフェース	UltraSCSI		
最大同期転送速度	20MB/ s *4		
キャッシュメモリ	8 MB	2 MB	
環境条件 *5	動作時		パソコン本体に準じる
	保管時	温度	- 10 ~ 50
		相対湿度	10% ~ 85%
入力電圧		DC + 5V ± 5 %	
消費電力 (定格)		7 W	6 W
外形寸法 幅 × 高さ × 奥行き		149 × 42.8 × 180mm	
質量		600g	

*1 対応メディアについては本書の 1 . 1 節参照。

*2 2.3GB MO メディア使用時は 3637rpm。

1.3GB MO メディア使用時は 3637/4138/4801 rpm
(書き込み位置のより自動切換え)

*3 1.3GB MO メディア使用時は 3637rpm。

*4 理論値。

*5 ただし結露なきこと。

